

Costume and Textile

No. 42

服飾文化学会会報

2021年9月

2021（令和3）年度 第22回服飾文化学会大会の報告

第22回総会・大会は2021年5月22日（土）、杉野服飾大学を開催校として行われました。昨年度から続く新型コロナウイルス感染症対策の状況から、オンラインでのZoom開催となりました。参加者は会員・非会員総数174名と全国各地から多数ご参加をいただきました。例年2日間の開催期間を設けていますが、オンライン開催の利便性を活かして1日開催とし、特別講演、口頭研究発表、ポスター・作品発表ショートスピーチをZoomによるリアルタイムで行ない、ポスター・作品発表の展示については会場展示に替えてスライド形式でのオンデマンド動画配信と致しました。

1. 特別講演

国際衣装美術デザイナーとして活躍される大町志津子氏をお迎えして「イタリアやヨーロッパでの舞台衣装デザイナーの経験と作品」と題してご講演いただきました。

大町氏はイタリア・ヴェネツィア・アカデミア絵画部、ミラノ・ファッション専門学校セーコロに学ばれた後、ヴェネツィアの衣装工房で舞台衣装に魅了されて衣装デザインの世界に関わってこられました。これまでに手掛けられた数多くの作品の中には、「椿姫」（イタリア・ヴェネツィア・ラ・フェニーチェ劇場）、



特別講演の様子

「マダム・バタフライ」（モナコ・モンテ・カルロ劇場）などがあります。それらの実際の作品を豊富なスライド画像で映しながら、またイタリアでの仕事の様子をドキュメンタリーとして紹介したTV番組の一部も交えながらお話をいただきました。

イタリアの現地スタッフと共に一丸となって舞台を作り上げるそのプロセスには、脚本と演出への理解と深い造詣、素材や色彩、歴史や芸術の知識、さらにコミュニケーション力が求められるパワフルな世界がありました。大町氏の穏やかな語り口調の中にも舞台に対する熱い想いが画面越しに伝わってくるようでした。

この講演会には学会員の他にも一般の方の多数のご参加をいただきました。講演後もご参加の方々から好評のお言葉やお問合せのメールをいただき、特別講演への高い関心が感じられました。舞台衣装の世界に魅了された充実した講演会となりました。

2. Zoomによる口頭研究発表

広い教室で大きなスクリーンにパワーポイントを映しながらの発表では周りに運営スタッフがサポートで居ますが、Zoomでの発表は、発表者お一人でパソコンのカメラに向かうことになり、見えない参加者へのプレゼンテーションは不安もあったかと思います。開催者側もオンライン環境の不具合等での心配もありましたが、司会の先生方、座長の先生方のスムーズな進行も助けとなって大きなトラブルもありませんでした。工夫を凝らした各発表のパワーポイントも参加者側個々のパソコン画面で鮮明にご覧いただけたのではないのでしょうか。

3. ポスター・作品発表のオンデマンド動画配信

今回の大会で新たに試みたのがポスター・作品発表のオンデマンドによる動画配信でした。会場での展示が叶わず、ご参加の皆さまに直接ご覧いただける機会が持てないために講じた策でした。画像では素材感や



Zoomによる口頭発表の様子



オンデマンド動画によるポスター・作品発表
写真提供(上下):東京家政大学 山元氏、大塚氏

細かいところまではお伝えできませんが、配信期間中にいつでも見られ、またじっくりご覧いただく場合には画像を静止することもできる利点もありました。

新型コロナウイルス感染症対策をきっかけに、多くの学会の総会・大会がオンライン開催となり、これも一つの運営方法として定着しつつあるようです。ですが、全国から研究発表者・参加者が開催校に足を運び、緊張感ある会場で最新の研究成果に触れることができるというあの特別な空気は、やはり対面での開催に勝るものはないと改めて感じるところもありました。ぜひ来年度はより多くの研究成果が発表され、直接会場で参加者の皆様とお目にかかれることを願っております。

(大会実行委員長 鈴木桜子)

第22回大会・総会プログラム

開会の辞 会長 長崎巖 (共立女子大学)

特別講演

テーマ 「イタリアやヨーロッパでの

舞台衣装デザイナーの経験と作品」

講師 大町志津子氏 (国際衣装美術デザイナー、
杉野服飾大学特任教授)

口頭研究発表

*司会進行 副会長 内村理奈 (日本女子大学)

*座長 新實五穂 (お茶の水女子大学)

A-1 ポンパドゥール侯爵夫人の宝石彫刻

-18世紀半ばにおける新古典主義の萌芽-

日本女子大学大学院 木下ミルテ

A-2 卒業制作作品にみる装飾技法

-杉野服飾大学を事例として-

杉野服飾大学 ○設水彩加 安部智子

*座長 玉田真紀 (尚絅学院大学)

A-3 視認性向上を目的とした外出時の服装に関する研究-服装色の基礎調査-

相模女子大学 角田千枝

A-4 被服教育におけるデザイン教育への視座

杉野服飾大学 鈴木桜子

ポスター・作品発表 ショートスピーチ

*司会進行 大崎綾子 (女子美術大学)

B-1 毛皮の加工技法について -フォックスを使用したレイヤード加工の実物制作-

文化学園大学 根本賀奈子

B-2 皮革を用いたつまみ細工の技法研究、および靴制作

文化学園大学 杉澤香織

B-3 後期高齢者における

夏用ブラウスのデザイン検討

徳島文理大学短期大学部 藤本和賀代

*司会進行 藤井裕子 (女子美術大学美術館)

B-4 副資材を使用した持続可能なファッション

文化学園大学短期大学部 小出恵

B-5 古着物を利用した日常着の制作 -大島紬-

文化学園大学 高木幸子

B-6 技法の比較によるバッグの制作

東京家政大学 ○山元理奈 大塚有里

*司会進行 富田弘美 (東京家政学院大学)

B-7 サステナビリティのための服飾デザイン

-サイズを変えることができる服-

文化学園大学 村上剛規

B-8 衣装制作のための教材研究

-19世紀絵画からの着想-

杉野服飾大学 満喜朋美

ポスター・作品発表スライド動画

オンデマンド配信 10:00~16:30

総会

閉会の辞

副会長 田中淑江 (共立女子大学)

特集記事 京都染織祭と女性時代衣裳—衣裳制作の背景を考える—

北野裕子 (龍谷大学)

2021年7月15日～9月28日、文化学園服飾博物館において、公益社団法人京都染織文化協会創立80周年記念「再現 女性の服装1500年—京都の染織技術の粋—」(監修長崎巖共立女子大学教授)が開催されている。

この展覧会では同協会と服飾博物館が所蔵する衣裳をもとに古墳時代から明治まで1500年にわたる女性の服装を着装姿で展示している。同協会は1941年(昭和16)に設立された社団法人京都織物輸出振興協会から変遷を重ね、2004年(平成16)に社団法人京都染織文化協会となり、2011年に公益法人化され、染織文化の振興活動を続けている。

今回、協会から展示された衣裳は1931年(昭和6)から春の京都で行われた「染織祭」のために制作されたものである。1933年からは古墳・奈良・平安・鎌倉・室町・桃山・江戸初・江戸末の8つの時代にわたる女性時代衣裳(143人分)を京都花街の芸妓や舞妓が着装して市中をパレードする時代行列が始まる。

ただ、1931年と言えば、2年前に世界恐慌が発生し、その影響が日本へ及んだ「昭和恐慌」と呼ばれた経済低迷の渦中だった。そんな時期に多大な費用と人財がかかる祭りがなぜ創設され、さらに華やかな女性時代衣裳が制作されたのかを考えてみたい。

祭りの創設には京都染織業界と支援した京都市の産業振興への思惑が大きい。第一次世界大戦後から「大衆」の時代が徐々に進行し、力織機の導入、化学染料・機械染色の普及、さらに恐慌でそれまで輸出中心だった生糸も安価になった。呉服の大衆化が進行し、京染呉服は思いのほか売れていた。しかし、高級品の西陣織や工芸品の売れ行きは厳しかった。

一方、京都市も職人の救済に頭を抱え、税収の低下に悩むなか、1930年(昭和5)5月、日本で初めて観光課を設置し、観光振興を模索していた。そこで京都染織業界の中核を担った大手の染呉服問屋が中心となり、1931年に入ると業界や行政が一丸となった「染織講社」を設立、4月に染織祭を挙げる。ただ、時代祭に対抗した平民風俗による「大衆行列」を構想したものの、初年は間に合わず、3年目に8時代の女性風

俗行列として完結する。大衆では西陣織のような高価な染織品が活用できないため、下表のように高貴な身分と庶民の衣裳が混在する形になったのだろう。

時代	テーマ	主に参考とした資料
上古	機殿参進の織女	髪型=埴輪
奈良朝	歌垣	薬師寺女神像、正倉院宝物など
平安朝	やすらい花踊	年中行事絵巻(別本卷三・安楽花)
鎌倉	女房の物語	四天王寺の什宝など
室町	諸職の婦女	七十一番職人歌合
桃山	醍醐の花見	北政所打掛(高台寺蔵)など
江戸初期	小町踊(七夕踊)	還魂紙料の図
江戸末期	京女の晴着	野村正治郎・吉川観方の所蔵品

各時代でテーマがあり、現存する遺物や絵画、文献などに基づいて制作された。第3回染織祭後に委員の関保之助・猪熊浅麻呂・出雲路通次郎(有職故実研究など)、猪飼嘯谷(画家)により刊行された『歴代服装図録 染織祭篇』(歴代服装図録刊行会 1933年)に詳しいが、野村正治郎(古美術商・友禅研究)・吉川観方(画家・風俗研究・コレクター)・高田義男(宮中装束研究)の協力が大きい。

当時は大正期に増加する女学校の科目として要望された日本服飾史の揺籃期だった。約90年を経た今日では異論もあろうが、一流の研究者たちが考案した考古から江戸までの衣服を京都が可視化できた意義は大きい。呉服の大衆化が進み、地方産地から追い上げられるなかで、京都は「染織の都」であることを示し、「京の四大祭の一つ」と謳われた。

しかし、1937年(昭和12)に日中戦争が始まると翌年から行列は自粛される。その後の動向も含め、本稿の詳細は展覧会と合わせて協会創立80周年記念事業として出版された拙著『忘れられた祭り 京都染織祭』(思文閣 2021年7月 1500円)を拝見願いたい。附録には協会が所蔵する資料や時代衣裳がカラーで収められている。

※今回の特集記事は展覧会に伴って2021年7月31日に行われました講演会の内容をご本人(当学会員)に執筆していただいたものです。

会計報告

① 服飾文化学会 令和2年度 収支決算書 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,400,000	1,266,000	△ 134,000	R3正6,000×8名、通込13,000×2名、1000×1名 R3 学3,000×1名 R2正6,000×181名、5000×1名、学3,000×6名 H31-R1 正6,000×6名、学3,000×1名 H30正8,000×5名 H29正8,000×4名 H28正8,000×1名
(2)入会費	10,000	9,000	△ 1,000	正1,000×8名、学500×2名
(3)年間購読料	54,000	48,000	△ 6,000	3,000×16件
(4)学会誌掲載料	550,000	195,600	△ 354,400	Vol.3 No.1掲載料195,600(4件8名)
(5)その他	0	5,019	5,019	料子(1名)、研究会動画URL利用代金(5000円)
(6)繰越金	777,963	683,941	△ 94,022	令和元年度繰越金の修正
収入計 A	2,791,963	2,207,560	△ 584,403	
支出				
(1)経費				
1)総会・大会運営費	150,000	150,000	0	2名総会運営費69,443円 R2年度予算案の「総会運営費」
2)学会誌発行費	1,200,000	438,904	△ 761,096	R2年度は論文欄のみ発行、作品欄はR3年度発行予定
3)事務管理経費	100,000	2,960	△ 97,040	
4)通信費	80,000	34,405	△ 45,595	
5)会報発行費	220,000	158,620	△ 61,380	会報no.40,41
6)事務用品費	60,000	75,412	15,412	学会誌作品欄USBメモリ×10本含む
7)会議費	50,000	0	△ 50,000	
8)交通費	60,000	0	△ 60,000	
9)雑費	10,000	270	△ 9,730	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	0	△ 60,000	オンラインによる研究例会(講師料辞退)
2)事業費B	160,000	7,783	△ 152,217	オンラインによる論文発表会
3)事業費C	0	0	0	令和2年度は理事選挙なし
(3)広報費	90,000	119,820	29,820	ホームページ更新料件数増加
(4)交流費	10,000	8,740	△ 1,260	生活科学系コンソーシアムR2年度年会費および寄電
(5)事務外部委託費	231,000	161,876	△ 69,124	会員管理システムSMOOSY初期費用・初年度費用
支出計 B	2,481,000	1,158,790	△ 1,322,210	
収支差額 A-B	310,963	1,048,770		
次年度繰越金	0	1,048,770		

② 服飾文化学会 令和2年度 財政調整積立金収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,769,901	
総会・大会余剰金	79,824			
夏期セミナー余剰金	0			
	79,824		1,849,725	
項目	収入	支出	残高	備考
服飾文化基金	1,000,000			H21年度
	1,000,000		2,000,000	H22年度

③ 服飾文化学会 令和3年度 予算(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,314,000	1,400,000	△ 86,000	R3年度正会員214名、学生会員10名の場合
(2)入会費	10,000	6,000	4,000	
(3)年間購読料	54,000	54,000	0	
(4)学会誌掲載料	550,000	550,000	0	
(5)その他	0	0	0	
(6)繰越金	1,048,770	683,941	364,829	
財政調整積立金の取崩し	0	0	0	
収入計	2,976,770	2,689,941	282,829	
支出				
(1)経費				
1)総会・大会運営費	150,000	150,000	0	
2)学会誌発行費	1,650,000	1,200,000	450,000	R2発行予定(R2年度vol.3 No.2作品欄、R3年度Vol.4 No.1)掲載料、英文要旨校正代、外部委託費を含む
3)事務管理経費	20,000	100,000	△ 80,000	R2年度より、事務外部委託SMOOSY導入
4)通信費	50,000	80,000	△ 30,000	
5)会報発行費	180,000	220,000	△ 40,000	
6)事務用品費	60,000	60,000	0	
7)会議費	10,000	50,000	△ 40,000	オンライン会議開催を考慮
8)交通費	20,000	60,000	△ 40,000	調査・理事会交通費(実費上限10,000円)を含む
9)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	60,000	0	研究例会
2)事業費B	150,000	160,000	△ 10,000	論文発表会
3)事業費C	50,000	0	50,000	R3年度理事選挙
(3)広報費	120,000	90,000	30,000	HP更新・作成増、ドメイン更新、メルマガ配信契約費を含む
(4)交流費	10,000	10,000	0	生活科学系コンソーシアム会員等
(5)事務外部委託費	231,000	231,000	0	
支出計	2,771,000	2,481,000		
収支差額	205,770	212,941		

④ 服飾文化学会 財政調整積立金及び服飾文化基金の増減

	R2年度末残高	当期増加額	当期減少額	当期残高
財政調整積立金	1,849,725	0	0	1,849,725
服飾文化基金	2,000,000	0	0	2,000,000

* 平成27年度より特別会計の名称を財政調整積立金と変更

*****事務局より*****

【新入会員】(敬称略、申込順)

正会員 村上 剛規 (文化学園大学)
 増田 貴史 (北陸先端科学技術大学院大学)
 満喜 朋美 (杉野服飾大学)
 山元 理奈 (東京家政大学)
 瀧川 美佐子 (杉野服飾大学)
 成河 端子 (一宮市博物館)
 設水 彩加 (杉野服飾大学)
 角谷 野々花 (文化学園大学)
 新田 摂子 (沖縄県立芸術大学芸術文化研究所)

学生会員 伊井 さえこ (共立女子大学)
 木下 ミルテ (日本女子大学)
 三宅 真未 (お茶の水女子大学)

【退会員】

吉川 玲子 陳 思遙 小磯 かおり 徳井 淑子
 森田 裕子 加藤 素子 長田 美智子 加藤 なおみ
 芳井 敬郎 石黒 恵美 山口 永莉華

◆◆◆◆◆◆◆◆ 展覧会のお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆

■展覧会名：女子美染織コレクション展Part9 舞楽装束
 会期：2021年9月29日～11月6日
 会場：女子美アートミュージアム

■展覧会名：西澤笛畝一人形をひのき舞台へ
 会期：2021年10月9日～11月28日
 会場：さいたま市岩槻人形博物館 展示室3

■展覧会名：寿(ことほ)ぎのきもの
 ジャパニーズ・ウェディングー日本の婚礼衣裳ー
 会期：2021年10月16日～11月14日
 会場：そごう美術館(そごう横浜店6階)

■展覧会名：民族衣装ー異文化へのまなざしと探求、
 受容ー
 会期：2021年11月1日～2022年2月7日
 会場：文化学園服飾博物館

◆◆◆◆◆◆◆◆ 近著紹介 ◆◆◆◆◆◆◆◆

長崎 巖『日本の婚礼衣裳 寿ぎのきもの』東京美術
 刊、2021年10月。
 辻元よしふみ・辻元玲子『図説 戦争と軍服の歴史：
 服飾史から読む戦争』河出書房新社、2021年5月。

会報 No.42：2021(令和3)年9月30日発行
 編集発行人：服飾文化学会
 事務局：102-8357 東京都千代田区三番町12
 大妻女子大学ライフデザイン学科工芸デザイン研究室
 TEL：03-5275-5738
 E-mail：fukubunjim@gmail.com
 URL：http://fukushoku-bunka-gakkai.jp/